

〔第3回下水文化研究発表会 記念講演〕

「ふれあい下水道館」

建設の経緯

松田旭正

ただいまご紹介いただきました、小平市の松田でございます。よろしく願います。

本日、下水文化研究発表会に全国からご出席のみなさま、ようこそ、小平市へお出で下さいました。ありがとうございます。

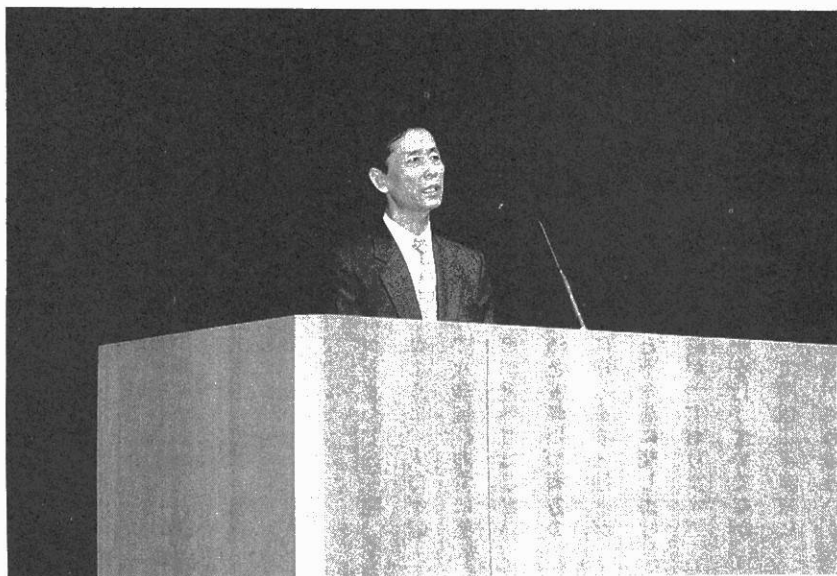
小平市と聞かれても、あまり知られていないものですから、おそらくお出でいただくのに迷われたのではないかと思いますが、小平市がよく知られていないのが実情です。

司会の方から、下水道管理センター（ふれあい下水道館）のこれまでの経過について、ということでございますが、先程、稲場先生からお褒めの言葉を

頂きまして、ご紹介がありましたように、具体的には先生のお話のとおりでございますし、さらに私どもの助役がご挨拶のなかでも申し上げておりますので、私の方からは若干具体的な数字等を含めながら、少しご紹介させて頂きたいと思っております。

◇小平市の概要

まず、小平市の概要から説明させていただきます。ご承知のように、都心から約二六キロの距離にございます。行政面積は二〇四六ヘクタールでございます。行政面積が市街化区域になっております。人口は約一六六〇〇〇人で、市の財政規模は、平成七



年度一般会計の予算は四百五十六億六千万円でございますが、その中で下水道は特別会計となっております。まして、五十九億一千万円です。このような予算のなかで「ふれあい下水道館」の事業を進めて参ったわけでございます。

「ふれあい下水道館」の総事業費は十八億五千二百万円でございますが、これは当初計画しましたとおりに完成いたしました。

建設年度は平成四年度（五年一着工）から平成七年度八月に完了いたしております。

事業費の内訳について申し上げますと、

国庫補助金 一億八千六百万円

都費補助 一億四千万円

市の一般財源 二億五千九百万円

起債 十二億六千七百万円

となっておりますが、当初はすべて一般財源で実施すべきではないかというふうに言われておりまして、十八億五千二百万円すべての一般財源を確保して着工しました。その中には市の予算の実情から見て、

なぜこれだけの事業を行うのかということを含めていろいろと議論があったところでございます。実際には起債が認められましたが、この起債分と市の一般財源を加えた十五億二千六百万円が、小平市の費用ということになっております。「ふれあい下水道館」の施設でございますが、用地を除く建物、展示室のすべてでございいます。用地の面積は約一〇〇〇㎡ございまして、用地は借地でございいます。

ご承知のように、多摩地域につきましては先程、間片先生のお話にもございましたように、人口が昭和三十年代に急激に増加しまして水環境が非常に悪化してまいりましたのは、小平市が例外ではございません。特に小平市の流域は荒川と多摩川の両方の流域に属しております、正式に申しますと殆どが多摩川流域でございいますが、こと下水道に関しましては、荒川流域と多摩川流域に跨がっております。そういうことで、小平市の事業を行っていくなかで、下水道事業は二十年間かかって平成二年度末に完成しております。二十年間で整備が終わるという

のは比較的早いほうではないかと思っております。

平らな地形で住宅をどんどん建てますと生活排水を流す所が無いわけですし、しかも川が殆どございませんで、間片先生のお話にもありました荒川水系の石神井川が七〇〇mしか流れておりません。それも小平市の東端の市境に若干流れている程度です。雨は地下に浸透していました。

そういう所に住宅が出来ましたので生活排水がどんどん道路に流れて来たりしておりましたので、とにかく早く下水道を完備させなければいけないというところで、下水道整備が急がれました。

小平市では昭和四十五年以前に計画いたしました地域が全面積の三分の二ございいますが、そちらは合流式でございいます。残り三分の一が分流式になっております。処理区域が異なる地域を、同じ行政区域内で持っております、全て流域関連の下水道ということになっております。

◇「ふれあい下水道館」の位置づけ

小平市の下水道管理センター（「ふれあい下水道館」）の内容につきまして、若干ご説明いたしますと、公共下水道の管理センターの設置につきましては当初、財源的にいろいろ問題があったと、先程も申し上げましたが、位置づけとしてどういう位置づけにするのかということでございまして、小平市には下水処理場もございませんし、ポンプ所もございません。全て自然流下でございまして下水道は管渠しかございません。その管渠に、「下水道管理センター」をつくるということとは下水道法からみてどういう位置づけになるのかということで、市では当初記念事業という名前も付けておりましたが、補助金を申請するのに記念事業ということでは適当でないと考えまして「管理センター」という名前にしました。それでは「管理センター」というのは何を管理するのかということになります。それは管渠の管理というわけですが、管渠の管理にはマンホールがありますから、何も改めてマンホールを作る必要はな

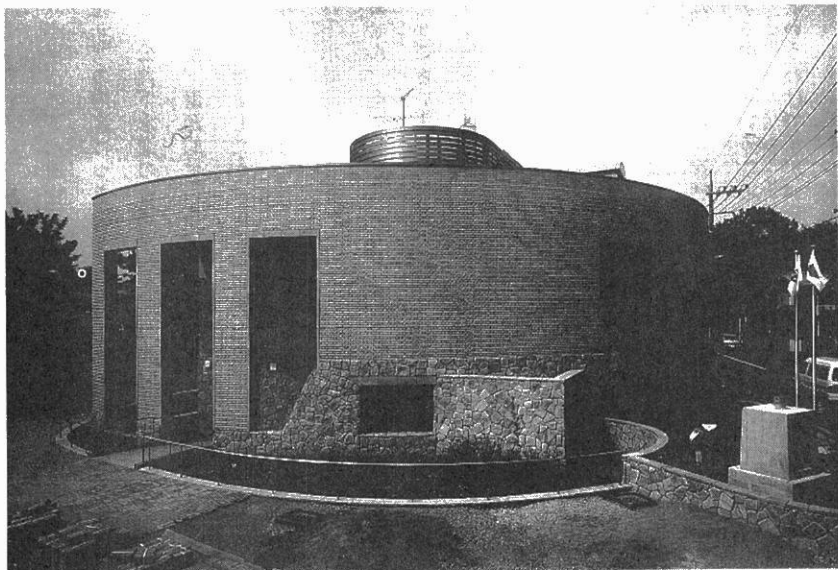
いわけです。そこで「管理センター」をどういうふうに位置づけて行くのかということで非常に苦労をしたわけでございます。

そういう面ともう一つは、こういう施設が何故必要かということで、小平市で下水道が完備しますと、下水道はマンホールの蓋しか見られないことになります。しかも市は多摩川と荒川の上流域にございます。完備した下水道によりまして、小平市の下水は多摩川左岸流域下水道、荒川右岸流域下水道の、それぞれの処理場へ流れていくわけです。

小平市民の流した下水は、他の市域へ流れて行ってそこで処理してもらっているということを、市民にご理解いただく、或いは子供たちが将来、下水道をどのように位置づけるかを勉強してもらう、というのが当初の考え方でございました。

法的な位置づけなどいろいろございましたが、最終的には下水道の広報施設ということで条例に位置づけることになりました。小平市下水道条例にはこういう施設の規定がございません。小平市下水道条

「ふれあい下水道館」全景



例の中にこの施設をどのようにうたい込むか、いろいろと建設省さん等にご指導いただきまして、現在は下水道の広報施設として位置づけております。

いろいろと経過はございましたが、お蔭様で昨日（十月四日）この「ルネこだいら」におきまして、

「ふれあい下水道館」開館記念式典を迎えることが出来ました。建設省さんをはじめ、東京都さん、先進各都市さんには大変お世話になりました。

下水道が完備し、「ふれあい下水道館」も開館しましたが、残ったものは何かと言いますと、借金、いわゆる起債でございます。下水道完成時の平成二年度末で元利合計六百二十五億円の起債を抱えております。この起債を平成三十二年までに返すということになっております。

平成二年度末の起債は市民一人当たり四十万円になります。これを将来どう返還していくかということと、下水道を維持管理していくには使用料を頂かなければなりませんので、この使用料について市民の方々にご理解いただくと同時に、マンホールの蓋

だけしか見えないところでの市民が、水の環境をどのようにして守ったら良いのか、といったことなどいろいろとご理解いただくといいことを含めまして、位置づけて行くことになろうかと思ひます。

◇「ふれあい下水道館」の展示内容

一般的には行政のなかで下水道セクションがこういうものをつくりまゝと、当然下水道の展示、或いは下水道の管理を主要な目的としています、やはり、飲み水、上水道がなければ下水道というのは無いわけですし、そういった意味から、雨水は別にしまして、飲み水から、或いは使う水から下水が発生し、これ进行处理して河川に流す、この水環境を大切にしていかなければならないということで、一部上水道のことも子供たちに分かるように展示しております。

施設の概要ですが、午後から現地を視察していただければ私が説明するまでもございませんが、「ふれあい下水道館」の側には玉川上水が流れていまして、

玉川上水の景観に調和を図りながら建物をつくったつもりです。

建物は地上二階、地下五階になっております。

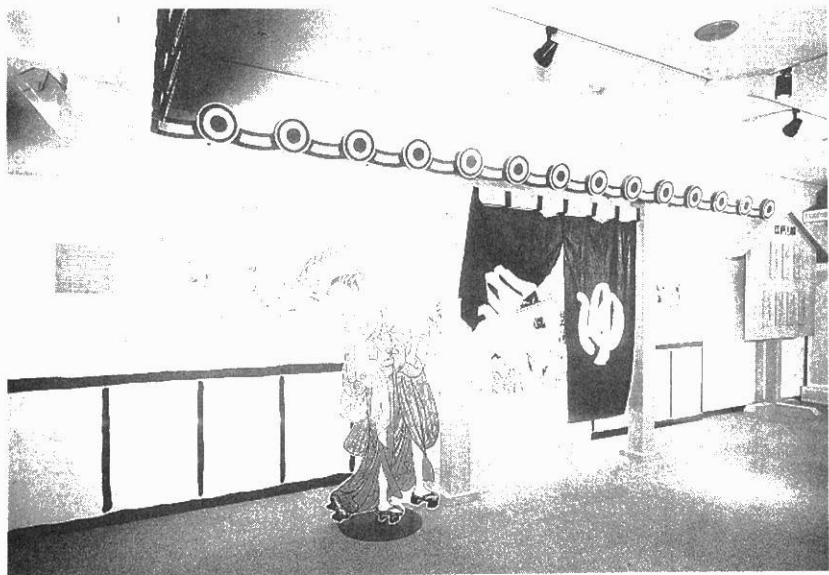
一階につきましては、溪流のイメージを取り入れてございます。

地下一階は、子供たちに下水がバクテリアできれいになることが分かるように、顕微鏡と大型ディスプレイでバクテリアが見えるような施設にしてあります。

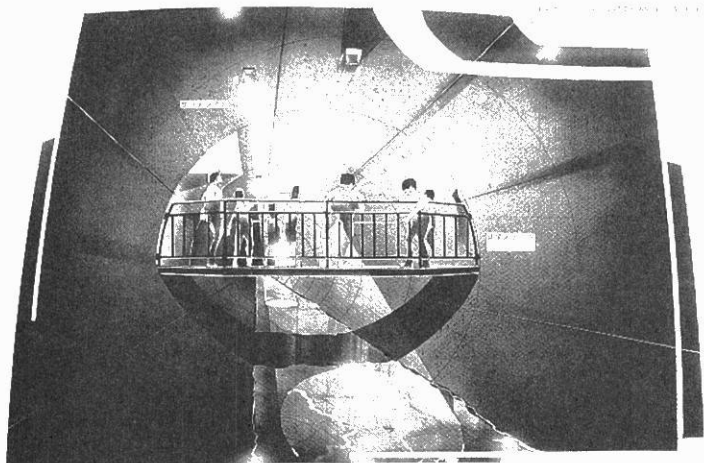
地下二階は、一般的な下水道の歴史や仕組みが分かるようになっております。

地下三階は、小平市の水事情、小平市という所は以前に水が無い所でしたので、そういう水環境を説明しております。

地下四階は、特別展示室になっておりますが、今回は開館記念の特別な展示といたしまして、日本下水文化研究会の皆様にご協力いただき、「近代下水道の歴史と夜明け」というテーマで展示をしていただいております。日本下水文化研究会運営委員の皆



「特別展示室」



下水道管内に設けられた見学用ステージ

様方には本当にご努力いただきまして、お陰様で非常に良い展示が出来まして喜んでおります。本席をお借り致し厚く御礼申し上げます。

地下五階は、下水道管内に通じているフロアーです。下水道管を直接ご覧いただく所でございますが、下水道管は合流管でございます、管径が四五〇〇ミリ、地上から管底まで二十八mございます。管の中に入るわけですから、事故等を非常に心配をしております。下水道管内に下水を見るためのステージを設けているのですが、集中豪雨等で水位が上がった時にどうするか、それとも一つは管内に入るときに酸欠の測定をどうするか、この二つが大きな悩みでした。また、下水道管の中のことですから伝染病の菌などはどうするのかという問題もございしますが、この辺のところは取り敢えずはクリアしたつもりでおります。

そのようなことで、昨日オープンに漕ぎ着けたというところでございます。

このような施設が全国各地に出来まして、さらに

下水道を市民の方々にご理解いただくように、また、水環境が少しでも改善されるように、私どもも期待しております。

時間も参りましたので、私の説明はこれで終りまして、ご質問がございましたら後はど現地で承ることにさせていただきます。

本日は遠路、小平市までお出いただきましてありがとうございます。以上で終わらせていただきます。

小平市から

日本下水文化研究会に「感謝状」

「ふれあい下水道館」の展示について、企画・資料収集などで日本下水文化研究会が協力してきたことに対し、小平市長から、「感謝状」が贈られました。